

平成27年度 自己点検・評価に係る報告書(教育に関する活動状況の自己点検・評価)

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p>						
<p>1・教育に関する事項 (2) 教育課程の編成等</p>	<p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○昨年度の教育懇談会打合せ結果を基に、H27年度は将来構想委員会を設置し15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を検討する。</p>	<p>①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○昨年度当初より運営会議メンバーによるビジョンW.G.を立ち上げ、5~10年後の将来ビジョンを検討・審議し、これを纏めることで前期末(9月)に基本方針を発表した。さらに本方針を基に、H27年度後期(10月)より将来構想検討委員会を設置し、具体的な制度化や取組について検討・審議し、中間報告を纏めた(3月末までに既に7回の委員会会議を実施した)。 ○10月に機構による監事監査が実施され、各部署ごとの現状に於ける課題と将来ビジョンに向けた特色ある取組などのヒアリングが2日間に亘り実施された。評価結果としては、概ね高い評価が得られたが、H29年度にH26年度認証評価結果指針の「改善を要する点」について具体的な改善が実施できるようにとの指導があった(10月)。 ○校長を中心とするW.G.による産業界のニーズ・動向も含めた上記基本方針に基づいて、若手~中堅教員をメンバーとする将来構想検討委員会において、高専機構本部の動きとも連動した本科や専攻科の改組・充実に関する具体的な取り組みを検討し中間報告を纏めた(3月実施済)。</p>	<p>・H26年度認証評価結果における「改善を要する点」は、①準学士課程に於ける「倫理力」「コミュニケーション」の十分な担保と、②高専機構に拠るものでなく、米子高専独自の自己点検評価書原案の草立の作成検討、といった2点の改善要望があった。</p>	<p>③については、H28年度に向けたカリキュラム改定にて実施予定であり(7月決定)、②については高評価を得た石川高専を訪問・調査(11月実施)し、米子高専独自の自己点検評価書原案の草立をおよび目次を作成し運営会議・学科長会議にて承認を待た(1月)、来年度中に評価書原案(たたき台)を作成予定である。</p>	<p>達成した</p>	<p>運営会議 教務部 専攻科</p>
	<p>①-2 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 ○定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会や運営会議にて審議の後、各部署における改善への具体的な取り組みを促す。</p>	<p>①-2 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 ○今年度は卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とする定期的アンケートの実施年であり、前期末(9月)までに配布者リストを作成した。H22~H26年度に亘る対象者は、卒業生・修了生:約1,000名、企業:37社、大学等:150学校であり、後期始め(10月)にアンケート配布を実施した(アンケート締め切りは11月末)。アンケート結果は、2月末を目処に纏めて、来年度初めに点検・評価委員会にて報告・検討する予定である。 ・企業・大学アンケートの結果、87%(無回答を除く)の企業・大学が、本校本科卒業生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、100%(無回答を除く)の企業・大学が、本校専攻科修了生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校卒業生・修了生は学習・教育目標A~Eについての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校本科卒業生は達成目標1~6についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。さらに、82%以上の企業・大学が、本校専攻科修了生は達成目標1~7についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果より、採用後に待遇改善につながる主な資格名と具体的な待遇改善内容について把握を行った。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、本校本科卒業生は、86%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、本校専攻科修了生は、回答者全員100%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、高専時代の教育や学生生活の満足度では、75%の卒業生・修了生が非常に満足・やや満足と回答したことを確認した。さらに、高専時代の授業で特に役立ったものでは、専門の講義科目26%、専門の実験実習科目24%、卒業研究・特別研究23%の順で回答が多かったことを確認した。(2月取りまとめ実施)</p>	<p>○今年度は卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とする定期的アンケートの実施年であり、前期末(9月)までに配布者リストを作成した。H22~H26年度に亘る対象者は、卒業生・修了生:約1,000名、企業:37社、大学等:150学校であり、後期始め(10月)にアンケート配布を実施した(アンケート締め切りは11月末)。アンケート結果は、2月末を目処に纏めて、来年度初めに点検・評価委員会にて報告・検討する予定である。 ・企業・大学アンケートの結果、87%(無回答を除く)の企業・大学が、本校本科卒業生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、100%(無回答を除く)の企業・大学が、本校専攻科修了生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校卒業生・修了生は学習・教育目標A~Eについての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。具体的な十分備えているもしくははや備えているとの回答率は、A基礎力:98%、B応用力:95%、C発展力:89%、D倫理力:88%、Eコミュニケーション:82%であった。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校本科卒業生は達成目標1~6についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。さらに、82%以上の企業・大学が、本校専攻科修了生は達成目標1~7についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果より、採用後に待遇改善につながる主な資格名と具体的な待遇改善内容について把握を行った。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、本校本科卒業生は、86%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、本校専攻科修了生は、回答者全員100%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、高専時代の教育や学生生活の満足度では、75%の卒業生・修了生が非常に満足・やや満足と回答したことを確認した。さらに、高専時代の授業で特に役立ったものでは、専門の講義科目26%、専門の実験実習科目24%、卒業研究・特別研究23%の順で回答が多かったことを確認した。(2月取りまとめ実施)</p>	<p>達成した</p>	<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
	<p>②本科入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。 ○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施する。(4月実施済)。その結果26年度入学生よりも平均して若干の学力向上が確認できた。 ○平成28年1月に学習到達度試験(数学I、物理I)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立てた。例えば、26年度の到達度試験結果に基づいて、物理では新たに27年度から3年生に模擬試験を実施し(1月)学習内容の復習をさせた結果、学力向上を確認した(3月確認済)。数学でも従前から3年生に模擬試験を実施し(11月実施)ているが、26年度からは1・2年生にも模擬試験を課すことにより学習内容を習得させている。28年度も到達度試験結果を基に教育課程や教授方法の改善を継続して検討する。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付ける。 ○本科3年生で開講する新しい英語選択科目の内容について継続して検討する。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。 ○英語力向上のための外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座の実施方法や内容について見直す。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸ばさせる教授法について検討する。 ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸ばしに関して情報交換する。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックする体制を整える。 ○低学年(1~3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。 ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う体制を整える。</p>	<p>○入学直後の本科新入生を対象に基礎学力試験を実施した(4月実施済)。その結果26年度入学生よりも平均して若干の学力向上が確認できた。 ○平成28年1月に学習到達度試験(数学I、物理I)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立てた。例えば、26年度の到達度試験結果に基づいて、物理では新たに27年度から3年生に模擬試験を実施し(1月)学習内容の復習をさせた結果、学力向上を確認した(3月確認済)。数学でも従前から3年生に模擬試験を実施し(11月実施)ているが、26年度からは1・2年生にも模擬試験を課すことにより学習内容を習得させている。28年度も到達度試験結果を基に教育課程や教授方法の改善を継続して検討する。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付ける。年度末までに実施した(2月実施済)。 ○継続して本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について継続して検討した。 ○年度末に実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った(2月実施済)。 ○英語力向上のための外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座を実施した(5~11月実施済)。 ・しかしながら、参加学生が少なかつたため、28年度に向け実施方法や内容の改善点について、教務主事、専攻科長、外国語科教員と検討を始めた(11月~)。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸ばさせる教授法について検討中。 ○外国語科と教務・専攻科担当者間で英語力の伸ばしに関して情報交換した(11月実施済、3月実施済)。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテストへの参加を奨励した。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促した。 ○低学年(1~3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施した。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸ばさせる教授法について検討した(本科と専攻科の追跡調査を実施済)。</p>	<p>TOEIC講座の参加学生が少なかった</p>	<p>28年度に向け実施方法や内容の改善点について、教務主事、専攻科長、外国語科教員と検討した(11月~3月)。</p>	<p>達成した</p>	<p>教務部 専攻科 教養教育科</p>
<p>③学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynet-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 ○学生・教職員アンケートを毎年実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的な取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○平成27年度は定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施する年に当たりこれを実施しその結果を纏める。</p>	<p>○昨年度実施された学生・教職員アンケート結果を纏めると共に点検・評価委員会に報告・審議し、運営会議にて各部署への伝達と今年度中の取組を検討した(4月実施済)。また、本結果をホームページ上に掲載し、課題・その取り組みについての広報に努めた(5月実施済)。 ○毎年実施する学生・教職員アンケートのサーバを、I.S上の安全性から内部サーバへの移行を企画・実施した(12月に終了)。今年度の学生・教職員アンケートは、新規システムにて2月に実施済みであり、その結果を纏め、来年度の点検・評価委員会にて報告・審議の後、各部署における改善への具体的な取り組みを促す。 ・平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員及び非常勤講師の97%以上が本校の目的、教育理念や学習教育目標を理解しており、教職員の98%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。JABEEについては平成26年度の95%から若干の向上が見られた。(2月実施済) ・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科1年生の95%、専攻科1年生の100%、本科1年生から4年生の78%が本校の学習教育目標を知っている・一部知っていると回答しており、本科生においても周知が進んでいる傾向にあることを確認した。(2月実施済) ・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の71%以上、専攻科1年生は100%および本科5年生の61%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施済) ○今年度は定期的(原則:1回/5年)な卒業生・修了生および採用実績のある企業等を対象とするアンケートの実施年であり、前期末(9月)までに配布者リストを作成した。H22~H26年度に亘る対象者は、卒業生・修了生:約1,000名、企業:37社、大学等:150学校であり、後期始め(10月)にアンケート配布を実施した(アンケート締め切りは11月末)。アンケート結果は、2月末を目処に纏め、来年度初めに点検・評価委員会にて報告・検討する予定である。 ・企業・大学アンケートの結果、87%(無回答を除く)の企業・大学が、本校本科卒業生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、100%(無回答を除く)の企業・大学が、本校専攻科修了生は4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校卒業生・修了生は学習・教育目標A~Eについての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。具体的な十分備えているもしくははや備えているとの回答率は、A基礎力:98%、B応用力:95%、C発展力:89%、D倫理力:88%、Eコミュニケーション:82%であった。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果、82%以上の企業・大学が、本校本科卒業生は達成目標1~6についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。さらに、82%以上の企業・大学が、本校専攻科修了生は達成目標1~7についての能力を十分備えているもしくははや備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・企業・大学アンケートの結果より、採用後に待遇改善につながる主な資格名と具体的な待遇改善内容について把握を行った。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、本校本科卒業生は、86%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。さらに、本校専攻科修了生は、回答者全員100%が4年制大学卒業生と比較して技術的能力をほぼ同程度以上備えていると回答したことを確認した。(2月取りまとめ実施) ・卒業生・修了生アンケートの結果、高専時代の教育や学生生活の満足度では、75%の卒業生・修了生が非常に満足・やや満足と回答したことを確認した。さらに、高専時代の授業で特に役立ったものでは、専門の講義科目26%、専門の実験実習科目24%、卒業研究・特別研究23%の順で回答が多かったことを確認した。(2月取りまとめ実施)</p>	<p>達成した</p>	<p>達成した</p>	<p>企画部 教務部 専攻科 国際交流</p>	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。</p> <p>○校内ホームページで公開された授業評価アンケートの結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにする。</p> <p>○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。</p> <p>○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。</p> <p>○米子高専同窓会総会及び支部(関西・中部)総会、更に米子高専前期同窓会総会など併せて、進路担当責任者による卒業生受入企業訪問及び卒業生との交流会(情報交換会)を実施する。</p> <p>○米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の人的基盤である同窓会組織やYnct-netポータル・サイトの利用促進など卒業生との情報交換網の整備・充実を図る。</p>	<p>○前期開講科目については在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した。(10月実施済)。</p> <p>○前期開講科目についての授業評価アンケート結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにした。(10月実施済)。</p> <p>○年度末までに授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会の開催を検討した。</p> <p>○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した。(11月実施済)。</p> <p>○米子高専同窓会関西支部総会(5月16日)と併せ、進路担当代表者(キャリア支援室長、5学年主任)による関西地区企業訪問(ダイキン工業(株))(5月15日)、米子高専同窓会関西支部(米子高専関西地区卒業生&米子高専卒業生在職企業)→米子高専交流会(5月15日)を実施した。</p> <p>更に、米子高専同窓会中部支部総会(7月11日)と併せ、進路担当代表者(キャリア支援室長、5学年主任)による中部地区企業訪問(三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所、ブラザー工業(株))(7月10日)、米子高専同窓会中部支部(米子高専中部地区卒業生)→米子高専交流会(7月11日)を実施した。</p> <p>○米子同窓会本部・支部間などYnct-net連絡網整備の一環としてSkypeによるテレビ会議システムの試験運用を開始した。(11月実施済)。</p> <p>○Ynct-net(学校、卒業生、地元企業)の連携推進を図る産学連携コーディネータを配置した。(12月・2月実施済)。</p> <p>○高専祭(文化祭)と併せて2回米子高専ホーム・カミング・デイを実施し、卒業生との交流推進を図った。(10月実施済)。</p> <p>○高専卒業生キャリア調査中間報告会パネル・ディスカッションに卒業生をパネラー派遣し、Ynct-net活動の全国展開を図った。(10月実施済)。</p> <p>○Ynct-netポータル・サイトを通じた米子高専振興協力会求人情報提供サービスのフォロー・アップ調査を実施した。(6月実施済)。</p> <p>○Ynct-netポータル・メーリング・リストの試験運用を開始した。(10月実施済)。</p>	<p>授業評価の結果を基に、27年度は教育改善として優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会は実施できなかった。</p>	<p>27年度は教育改善として「ルーブリック」および「アクティブラーニング」に関するFD(講演会、ワークショップ)を企画・実施した。(9月・3月実施済み)</p>		
<p>へ3) 優れた教員の確保</p>	<p>⑤ 各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。</p> <p>○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。</p> <p>○採用2年以内の新任教員の居屋として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。</p>	<p>○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施した(4月より適宜実施済)。</p> <p>○FD活動の一環として、採用3年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した(4月より適宜実施済)。</p> <p>○採用2年以内の新任教員の居屋として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の78%が適切であると考えていることを確認した。特にハイバーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の84%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に64%が教育改善プログラム経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した。(2月実施済)</p> <p>・採用2年以内の新任教員の居屋として合同教員室および室長を配置していることについて、新任教員へのフォローアップが成された。主な意見としては、「着任後の不安解消にも役立ち、情報交換・情報共有が出来るので非常に良いシステムである」とのことであった。また、「2年間といわずもう少し在籍期間の延長が出来ないか」など、積極的・肯定的意見がほとんどを占めていた。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
<p>へ4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。</p> <p>○モデルコアカリキュラムに関する研修会に参加し、導入の準備を進める。</p> <p>○アクティブラーニング導入に向け、FDの開催を検討する。</p> <p>○到達目標の評価のため、取り入れやすい科目からルーブリック作成に着手する。</p> <p>○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続する。</p> <p>○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。</p> <p>○学生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援を実施する。</p> <p>○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業を実施し、講義力アップを図る。</p> <p>○教員による編入学生への学習支援を実施する。</p> <p>○新カリキュラムの導入</p> <p>○シラバスの1年生での導入の反省にとまじ、シラバスの修正を行う。</p>	<p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。</p> <p>○モデルコアカリキュラムに関する研修会に参加し、導入の準備を進める。</p> <p>○アクティブラーニング導入に向け、FDの開催を検討する。</p> <p>○到達目標の評価のため、取り入れやすい科目からルーブリック作成に着手する。</p> <p>○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続する。</p> <p>○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る(後期より実施中)。</p> <p>○数学、物理についてTAによる本科低学年の学習支援を実施した(5月～2月)。</p> <p>○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図った(5月、10月～実施済)。</p> <p>○留學生および編入学生へ学習支援の必要性について各学科長に連絡し、学習支援の必要性について確認した(11月実施済)。なお、27年度は留學生および編入学生に対して特段の学習支援は必要なかった。</p> <p>○建築学科ではモデルコアカリキュラムの導入に向けて、先行してWEBシラバスの操作説明会、ルーブリックに関する勉強会、シラバスの入力開始を行った。</p> <p>○教務部と建築学科で分野別横断能力の評価WGに参加、建築材料、建築計画、建築生産の授業で試行的に実施した。また熊本高専と連携を図りWGを運営した。</p> <p>・平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施した。平成27年度企画部学生アンケート結果より、97%の学生が情報教育センターのメディアラボとPC端末について使いやすい・まあまあ使いやすいと回答しており、設備更新の改善効果を確認した。(2月実施)</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、83%の教員が良好・おおむね良好であると自己評価しており、平成26年度の74%から向上が見られた。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、82%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、49%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した。(2月実施済)</p>			<p>達成した</p>	<p>教務部 キャリア支援室 情報教育センター</p>
<p>①-2 高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>①-2 「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p> <p>○高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。</p> <p>○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>○「高専学生情報統合システム」導入のため、一部の在学生の学生データを機構本部へ提出した(11月実施済)。</p> <p>○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する(継続中)。</p>			<p>達成した。</p>	<p>教務部 キャリア支援室</p>
<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努める。</p> <p>○29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、教務部・専攻科と連動してカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努める。</p> <p>○資格試験の案内パンフレットを作成し、在學生に配布する。</p> <p>○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。</p> <p>○特別適用専攻科への移行を行う。</p> <p>○教育プログラムの継続的改善に務め、JABEE認定プログラム継続審査の準備をする。</p> <p>○認定専攻科のレビュー受審の準備をする。</p>	<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。</p> <p>○29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、教務部・専攻科と連動してカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努める。</p> <p>○資格試験の案内パンフレットを作成し、在學生に配布する。</p> <p>○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。</p> <p>○特別適用専攻科への移行を行う。</p> <p>○教育プログラムの継続的改善に務め、JABEE認定プログラム継続審査の準備をする。</p> <p>○認定専攻科のレビュー受審の準備をする。</p>	<p>○H29年度のJABEE継続審査受審に関しては、昨年度末に現在の2プログラム(複合システムPと建築P)制を堅持して受審する方向決めがなされた。</p> <p>○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、H27～H28年度の答案などの成績資料保管に関するアナウンスを行った(4月・翌年2月教員会議にて実施済)。また、昨年度の認証評価、JABEE中間審査の結果を受けて、「改善を要する点」に係る本科・専攻科のカリキュラム改訂を含めた継続的な教育の質の向上に努めた(7月から本科・専攻科カリキュラム改定の準備を実施した)。</p> <p>○5月に資格ガイドブックの作成、7月に配布を行い、資格取得の支援をおこなった。なお、次項にあるように、資格取得結果は匿名通信に搭載した。</p> <p>○2月に資格取得者の調査を行い、匿名通信3月号に公開した。</p> <p>○特別適用専攻科へ移行した(10月計画書等申請済・3月報告書等申請済)。</p> <p>○特別適用による学位申請によって、H27修了生全員が学位を取得し、修了式で学位記を授与した。</p> <p>○H29年度のJABEE継続審査受審に向けた対応として、専攻科のカリキュラム改訂を検討した(3月実施済)。</p> <p>○H28に予定されている認定専攻科のレビュー受審の準備を開始した(H28の受審は延期になった)。</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員の98%がJABEEにおいて意識して教育活動を実施していることを確認した。平成26年度の95%から向上が見られた。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の71%以上、専攻科1年生は100%および本科5学年の61%以上がJABEEについて認識していることを確認した。(2月実施済)</p>	<p>・H26年度認証評価結果</p> <p>・H29年度に向けた教務部のカリキュラム改定に際しては「改善を要する点」は、準学士課程に於ける「倫理力」・「コミュニケーション」の十分な担保の必要性であった。</p> <p>・平成26年度受審したJABEE中間審査で複合システムデザイン・工学プログラムを構成する生産システム工学専攻と物質工学専攻のカリキュラムに於いて複合の概念が分かりにくいとの指摘があった。</p>	<p>・H29年度に向けた教務部のカリキュラム改定に際しては「改善を要する点」は、準学士課程に於ける「倫理力」・「コミュニケーション」の十分な担保の必要性であった。</p> <p>・平成26年度受審したJABEE中間審査で複合システムデザイン・工学プログラムを構成する生産システム工学専攻と物質工学専攻のカリキュラムに於いて複合の概念が分かりにくいとの指摘があった。</p>	<p>達成した</p>	<p>教務部 専攻科 キャリア支援室 JABEE委員会</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。	③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。 ○中四国専攻科研究交流会に参加する。 ○他高専学生寮との寮生交流会を実施する。	○中四国専攻科研究交流会に参加した(4月実施済)。 ○松江高専との寮生役員交流会を実施した(11月実施済)。			達成した。	教務部 学生部 寮務部 専攻科
④エンジニアリングデザイン教育に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。	④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法の改善を検討する。 ○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。 ○専攻科における特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討する。 ○技術プロジェクト活動やまちづくり活動を通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の開発が図れるように教育環境を改善・整備を検討する。	○エンジニアデザイン教育の一貫として建築学専攻の1、2年生が隠岐の島町で空き家活用計画案について発表した(10月実施済)。 ○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討したが、26年度にエンジニアリングデザイン教育のFDを実施したこともあって開催は見送った。 ○専攻科における特色ある教育方法の実践例を分析し、カリキュラムの見直しや実践テーマ等の内容を検討した(3月実施済)。 ○鳥取大学医学部との間で医工連携をキーワードとした教育プログラムについて検討した(6月、11月実施済)。 ○建築学科では中心市街地における空き屋活用実践を昨年度より引き続き行った。 ○建築学科ではデザイン系の課題を活用したエンジニアリングデザイン教育を行い、その成果として、空間部門審査員特別賞、創造部門優秀賞、構造部門最優秀賞を獲得した。 ・平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、全教員の73%が普段の教育活動の中で他の教員や科目との科目間連携を意識していることを確認した。さらに、具体的な科目間連携の事例の集約も行った。(2月実施済) ・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、83%の教員が良好・おおむね良好であると自己評価しており、平成26年度の74%から向上が見られた。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した。(2月実施済) ・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、82%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した。(2月実施済) ・平成27年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、49%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した。(2月実施済)			達成した	教務部 専攻科
⑤各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取組により教育の質の保証がなされるように留意する。 ○大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。また、この評価結果を校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRする。	⑤多角的な評価への取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。 ○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで、継続的な教育の質の保証・改善に努める。 ○大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を計画的に受審し、その評価結果を共有する。また、この評価結果を校内ホームページや学校要覧その他に公開し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRする。	○今年度は1月に、各界有識者により組織される本校の評議員会を開催し、本校の将来ビジョンとH27年度計画達成状況(自己点検書に基づく)を報告した。さらに、これに関する審議・検討を実施することで継続的な教育の質の保証・改善に努めた。特に、5～10年後の本校将来ビジョンに関しては、運営会議ビジョンワークグループで作成した基本方針に則り、校長自らが発表を実施することで、評議員会メンバーに活発な意見具申を促した。 ○昨年度受審した機関別認証評価の結果を冊子としてまとめ、学内で情報を共有すると共にホームページでの公開や学校要覧その他配布物に広く掲載し、広報活動に努めることで本校の教育の質の高さや特色をPRした(6月～実施済)。また、昨年度の認証評価、JABEE中間審査の結果を受けて、「改善を要する点」に係わる本科、専攻科のカリキュラム改訂を含んだ継続的な教育の質の向上に努めた(7月から本科、専攻科カリキュラム改定準備を実施)。 ○認証評価結果の優秀校である石川高専を訪問し、毎年度実施しておられる自己評価書の作成方法やその定量的評価制度等の情報を得ることで、本校に於ける特色ある自己評価書の作成を模索した(11月実施済)。 ・上記評議員会からの特段の指摘事項は無く、H27年度計画達成状況の記載内容に対する優れた取組や良好な結果に對し多くの賛辞を頂戴することができた。	・H26年度認証評価結果	①については、H29年度に向けたカリキュラム改定にて実施予定であり(7月決定)、②については高評価を得た石川高専を訪問・調査(11月実施)し、高専独自の自己点検評価書の作成検討、といった2点の改善要案があった。	達成した	運営会議 企画部
⑥インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるような産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。 ○インターンシップ情報データベースの充実を図る。 ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協会等と連携し、地域産業と連携した共同教育を検討する。	⑥学生が卒業までにインターンシップに参加できるような産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。 ○インターンシップ情報データベースの充実を図る。 ○県産業振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協会等と連携し、地域産業と連携した共同教育を検討する。	○4年担任および進路指導教員の協力も得ながら、5月中旬から6月中旬にかけてデータの更新・追加などインターンシップ情報の充実をおこない、学生のインターンシップ活動を支援した。 ○インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせその他、国の就活ガイダンスなどを活用した(その都度実施済)。 ○9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立てた。 ○4月にインターンシップに関する講演会を4年生を対象にして開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認をおこなった。 ○6月にガイダンスと身だしなみ講座を開催し、インターンシップの意義の再確認と諸注意をおこなった。 ○県産業振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実をはかった(その都度実施済)。			達成した	教務部 キャリア支援室
⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。 鳥取県、近隣自治体、その他産業振興組織等との連携を強め、米子高専振興協会等との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。 ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。 ○学科同窓会ネットワークづくりを充実させ、その中で、同窓生を中心とした企業人材との連携を深める。 ○非常勤講師が可能な企業技術者/研究者の調査を行う。 ○企業技術者/研究者を非常勤講師として活用することを検討する。 ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用することを検討する。 ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。 ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。	⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。 ○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。 ○地域企業の課題を卒業研究、専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。 ○3Dデータ研究会などを活用した授業を実施する。 ○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。 ○学科同窓会ネットワークづくりを充実させ、その中で、同窓生を中心とした企業人材との連携を深める。 ○非常勤講師が可能な企業技術者/研究者の調査を行う。 ○企業技術者/研究者を非常勤講師として活用することを検討する。 ○企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用することを検討する。 ○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。 ○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。 ○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。	○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を7件実施した(その都度実施済)。 ○振興協力会企業を中心に、地域企業のニーズにもとづくテーマで卒業研究等を42件実施した(その都度実施済)。 ○3Dデータ研究会(H27年度は2回実施、H26年度は5回実施済)で培った3D造形技術をもとに、ものづくりセンターにて卒業研究等での部品加工の指導(その都度実施済)、エンジニア科館での造形指導(7月実施済)を行った。 ○機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った(4～2月)。 ○電気情報工学科では昨年度立ち上げた学科独自の同窓会が活動中であり、現在も継続して活動中である。 ○電子制御工学科では非常勤講師が可能な企業技術者/研究者の調査を行った(10～12月:鳥取大学、鳥取大学、鳥取県産業技術センター)。 ○電子制御工学科では企業技術者/研究者を非常勤講師として活用した(12月:28年度電子物性の非常勤講師採用予定)。 ○電子制御工学科では企業技術者/研究者を講演会や公開講座の講師として活用した(9月:iOSアプリ開発講座、特別日課講演、10月クアルコムジャパン講演会)。 ○物質工学科では企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った(その都度実施済)。 ○建築学科では設計製図を中心に、創造実験演習、建築計画、建築生産などの授業で、企業実務者を非常勤講師として迎え、社会のニーズを組み入れた授業を行った。 ○建築学科では年度当初に、非常勤・常勤講師の意見交換会を設け、前年度の授業評価アンケートの結果などを用い双方のFDと意見交換を行った。 ○建築学科では建築材料、都市計画、建築生産の産学の形態を、アクティブラーニング型に変更した。	電気情報工学科:活動を継続していくことが課題である。	電気情報工学科:定期的な会合をもち、活動内容を検討する。	達成した。	地域共同 テクノセンター 各学科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>⑧国立高等専門学校機構本部と連携し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。</p> <p>○鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。</p> <p>○理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。</p> <p>○イノベーション指向人材育成の体制整備及び基本方針を策定</p> <p>○調査した人脈のある大学において、各OBの大学での様子等を調査する。</p> <p>○技術大等との共同研究が可能な分野の検討をする。</p> <p>○技術大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査する。</p> <p>○鳥取大学医学部との医学連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。</p> <p>○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通じて連携を推進する。</p> <p>○9月頃に呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行い、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行う。</p> <p>○豊橋技科大の教員を中心とした、呉・米子の共同研究を行う。</p> <p>○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行う。</p>	<p>○国立高等専門学校機構本部と連携し、両技術科学大学との連携を推進するため、長岡技術科学大学へ人事交流委員1名を派遣する予定であったが、採択されなかったため、内地研究員として派遣することにした。</p> <p>○鳥取大学大学院医学研究科へ進学した学生の体験談を入れた在校生向け専攻科PRを実施した(1月実施済)。</p> <p>○地域の大学特長を生かし、医工連携を狙いとして、鳥取大学医学部との間で教育プログラムについて協議した(6月、11月実施済)。</p> <p>○機械工科学科第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行っている。理工系大学との共同研究を行った(4～2月)。</p> <p>○鳥取大学が主催する「医療機器開発人材育成共学講座」へ教員が参加した(6～11月4回実施済)。</p> <p>○電気情報工学科ではOBが進学した豊橋技科大の研究室と交流を開始した。今後も交流を続けていける見込みである。</p> <p>○電気情報工学科では長岡技科大の「パワーエレクトロニクス」に関する研究室と交流中である。本年度も長岡技科大の教員を招いて出前講座を開催し、人的な交流が活発になってきた。</p> <p>○電子制御工学科では技科大等との共同研究が可能な分野の検討した(7月、豊橋技科大、9月、長岡技科大)。</p> <p>○電子制御工学科では技科大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査した(6月～現在)。</p> <p>○電子制御工学科教員を28年度に内地研究員として派遣することを決定した(1月)。</p> <p>○物質工学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学医学部生命科学科との高専・大学連携を検討している(その都度実施済)。 ・鳥根大学総合理工学部との共同研究を継続中(その都度実施済)。 ・「三機関が連携・協働した教育改革」における共同プロジェクトを実施した(その都度実施済)。 ・広島大学と平海再生技術の共同研究を実施した(その都度実施済)。 ・広島大学生物生産学部付風竹原ステーションにて物質工学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した(7月実施済)。 ・豊橋技術科学大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。 ・大阪市立大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。 <p>○建築学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡技術科学大学との人事交流を行った。 ・長岡、豊橋の教員を招き、5年生に対して講演会を行った。 ・9月に構造系交流会として、有明高専と呉、有明、米子の教員、学生が集まり、研究発表と構造ブレデザンを行った。 ・鳥取県建築教育交流会は、環境大学のカリキュラム見直しに伴い、今後の実施形態などについて検討会を8月に持った。 	電気情報工学科: 交流活動を継続していくことが課題である。	電気情報工学科: 出前講座等を活用して技科大の教員を本校に招くなど、人的な交流を活発化する。	達成した	教務部 専攻科 各学科
	<p>⑨ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。</p> <p>○ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。</p> <p>○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。</p> <p>○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。</p> <p>○講義や実験資料のデジタル化状況を調査し、収集・整理に努める。</p> <p>○e-Learningシステムの利用状況を調査し、利点および課題を検討する。</p> <p>○Matlabを利用している授業・実験テーマの利用状況を調査し、利点および課題を検討する。</p> <p>○ICTを活用した教育システムに関する教材および活用方法を調査・検討する。</p> <p>○学校内にサーバープログラムを置き、建築棟のCAD室のみでメディアラボでも授業や、学生の自学自習が実施できる環境について整備検討する。</p> <p>○e-ラーニング導入に向けた予算を中心とした実施検討を行う。</p>	<p>○ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進め、建築学科の講義のため、図書館2Fの講義室にルーターを設置した(10月実施済)。</p> <p>○ICT活用については、学習到達度試験(数学・物理)対策として、e-ラーニング(OBT)を利用したり、電子制御工学科ではデジタル回路、電子デバイスなどでOBTを授業に採用し、電子制御工学科や物質工学科ではレポート提出等にLMS(Moodle)を取り入れている(前年度より)。</p> <p>○数教養科ではCALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続した。</p> <p>○機械工学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた(4月)。</p> <p>○電気情報工学科では講義や実験資料のデジタル化の状況を調査中。本年度は各教員間で情報共有の方法を検討した。</p> <p>○電子制御工学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningシステムの利用状況を調査し、利点および課題を検討した(10月)。 ・Matlabを利用している授業・実験テーマの利用状況を調査し、利点および課題を検討した(4月)。 ・CADソフトの充実と活用を図るため、28年度図学授業でCADソフトを活用する(4～9月: NSK補助金申請中で検討、1月実施)。 <p>○物質工学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の情報科学IIでは、化学構造式図書ソフトの活用を行っている(その都度実施済)。 ・「情報工学II」においてe-ラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。 ・物質工学実験において分子モデリングソフトWinmolarを用い、分子長の計算などを行った(5月実施済)。 <p>○建築学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用教育の実践として、iPadを45台導入し、建築材料、建築生産、都市計画の授業の中で活用を始めた。 ・ICT活用教育の発展のため、Wi-Fiアンテナを導入し、20台までの接続確認、BackBoard授業導入の調査を行った。一般教室には有線接続のインフラがなく、現在の校内無線LANでは10台程度のiPadしか接続できない教室があった。 ・BackBoardの普及に向けた研修、11月餘高専で行われたFD研修会に参加した。 ・CAD教育の先端事例として、8月に東京でCADメーカー主催の研修会に講演した。 <p>・平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施した。平成27年度企画部学生アンケート結果より、97%の学生が情報教育センターのメディアラボとPC端末について使いやすい/まあまあ使いやすいと回答しており、設備更新の改善効果を確認した。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケートから、全教員の72%が教育の中でプロジェクターなどの視聴覚機器を有効に活用していることを確認した。(2月実施済)</p>	電気情報工学科: 教員間での情報共有が必要	電気情報工学科: 利会等で情報交換をおこなう。	達成した	教務部 各学科・科
支援(〜5)等) 学生支援・生活	<p>①メンタルヘルスに係る知識の普及のための講習会等を実施し、学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。</p> <p>○メンタルヘルス関係の講習会を実施する。</p> <p>○就学支援が必要な可能性のある新入生の事前相談を実施する。</p>	<p>○命の大切さに関わる講演を1年生対象に行った(第1回: 6月実施済、第2回: 1月実施済)。</p> <p>○1～5年生の学年ごとにメンタルヘルス関係の講演会を実施した。</p> <p>○健康調査書に発達障がいとの記述がある全ての学生の保護者へご連絡を取り、希望者と面談を行った。</p> <p>・平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の78%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパー0-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の84%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に64%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した。(2月実施済)</p>			達成した	学生部 学生相談室
(〜6) 教育環境の整備・活用	<p>①-1 施設・設備の点検評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。</p> <p>○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。</p> <p>○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。</p> <p>○施設バトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。</p> <p>○施設整備計画に基づくエコ、バリアフリー化を計画し推進する。</p> <p>○交流プラザに新たなリベラルアーツセンターを設置すべく準備を進める。</p>	<p>○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討した(6月～実施済)。また、用途変更を含む施設有効利用・再利用を実施した(例えば、事務員室の女性教職員用更衣室への転用など)。</p> <p>○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った(5月～実施済)。</p> <p>○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な視点に立った計画的な施設の整備を図り、今後のエコ・バリアフリー化を検討した(11月～実施中)。</p> <p>○設備マスタープランによる設備整備を計画的に実行し、設備維持費用に関する予算的な検討を図った(5月から適宜実施)。</p> <p>○安全管理に関する施設バトロールを月ごとに計画的且つ継続的に実施した。</p> <p>○平成28年4月リベラルアーツセンター設立に向けて、交流プラザにリベラルアーツ図書コーナーを整備した(完成は3月末)。</p> <p>・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の91%が教室を使いやすいと回答し、同様に97%の学生が実験実習室も使いやすいと回答していることを確認した。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の57%が図書館を利用したことがあり、94%の学生は図書館の本が充実していると感じていることを確認した。(2月実施済)</p> <p>・平成27年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の60%が情報教育センター内メディアラボを授業外でも利用したことがあることを確認した。(2月実施済)</p>			達成した	運営会議 事務部 インフラ整備・検討委員会 環境マネジメント委員会

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成27年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>3・国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 社会のグローバルゼーションに応え得る人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。</p> <p>海外の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・実施を推進する。</p> <p>国際協力機関(JICA、JICEなど)などが行う海外との交流事業への参加を促す。</p> <p>各種団体が行う海外研修・海外留学プログラムに関する情報提供を行う。</p> <p>国際協力機関(JICA、JICEなど)が行う海外との交流事業への参加を促す。</p>	<p>①-1 社会のグローバルゼーションに応え得る人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。</p> <p>○学校の国際化やグローバル教育推進のため</p> <p>海外の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・実施を推進する。</p> <p>○国際協力機関(JICA、JICEなど)などが行う海外との交流事業への参加を促す。</p> <p>○各種団体が行う海外研修・海外留学プログラムに関する情報提供を行う。</p> <p>○国際協力機関(JICA、JICEなど)が行う海外との交流事業への参加を促す。</p> <p>○米子高専後援会(保護者会)などと連携し、国際交流基金の充実と効果的な運用を図る。</p> <p>○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施する。</p> <p>○在校生の海外発表や海外語学研修を奨励する。</p> <p>○専攻科生の海外発表や海外語学研修を奨励する。</p> <p>○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励する。</p>	<p>○鳥取大学、鳥取環境大学と連携して「大学の世界展開力強化事業」(文科省)に応募し、国際交流の拡大・推進を図った(5月実施済)。</p> <p>○協定校・南ソウル大学校(韓国)の2015環境研修を企画し、本校学生との学校交流を実施した(12月実施済)。</p> <p>○アジアサテライトキャンプ(AJST)、トピタテ留学JAPAN(文部科学省)等を校内案内し、3名の本科学者がトピタテ留学JAPANへの応募申請準備を進めている(12月現在)。</p> <p>○2015環境研修(南ソウル大学校)学校交流プログラムの一環として高専及び高専留学制度の紹介を行った(12月実施済)。</p> <p>○国立高専機構が主催するISTS2015(マレーシア)に本科学生1名を派遣した(8月実施済)。</p> <p>○山口高専、徳山高専と連携してニューゼaland研修を実施し本科学生5名が参加した(8月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催するシンガポール・サマーキャンプに本科学生3名が参加した(8月実施済)。</p> <p>○鳥取県が主催する鳥取県・バーモント州(米国)青少年交流事業に本科学生1名を派遣した(10月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する海外協定校との合同研究発表会を、昨年に続き本校協定校・南ソウル大学校(韓国)で開催し、本校本科学者がBest Presentation Awardを受賞した(11月実施済)。</p> <p>○鳥高専が主催する英語キャンプに本科学生が参加した(3月実施済)。</p> <p>○協定校・南ソウル大学校の協力を得て、第2回米子高専海外研修旅行(韓国文化体験研修)・第3回国際交流協定に基づく教職員派遣研修を実施した(3月実施済)。</p> <p>○地域の特色を活かした日韓地域協働方式によるグローバル人材育成「研修(JASSO申請採択)を企画・計画し、昨年度海外研修旅行参加学生のステージア・アップ研修として本科学生を派遣した(3月実施済)。</p> <p>○今年度米子高専後援会総会で国際交流基金の増資が認められた(5月実施済)。</p> <p>○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施した(11年生に対して11月実施済)。</p> <p>○在校生の各種海外発表や海外語学研修を奨励し、Intel ISEFに本科学生3名が参加(5月)、ISTS 2015に本科5年生1名が参加した(8月実施済)。</p> <p>○専攻科生を対象にした海外語学研修や海外インターンシップの情報をまとめたフライヤーを学生および教員へ配布した(4月実施済)。</p> <p>○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励した(4月実施済)。</p>			達成した	国際交流 教務部 専攻科
<p>①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど参加する学生を積極的に支援し、継続して推薦する。</p> <p>学生の海外留学支援のため、日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行うと共に、学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用と、併せて国際団体が行う海外留学プログラムに関する情報提供を図る。</p>	<p>①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど、海外での学生の活動を推進する。</p> <p>○学生の海外留学支援のため、交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)との交流プログラムを中心として日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行い、環日本海ゲートウェイ拠点校として、他高専とのコラボレーションも推進する。</p> <p>○交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)と、相互インターンシップ実現に向けた協議を継続する。</p> <p>○海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。</p> <p>○教員や学生の国際的な会議・学会などへの参加により国際性の涵養に役立てる。</p> <p>○国際発表・交流会への学生の参加を推進する。</p> <p>○海外の大学との交流を継続する。</p> <p>○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生を引き続き調査する。</p> <p>○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生が必要としている情報を調査する。</p> <p>○各種プログラムへの学生の参加を積極的に推進する</p> <p>○各学年の年初のガイダンスで海外インターンシップや留学に関する説明を行う。</p> <p>○海外での学生活動のための予算獲得を行う。</p>	<p>○協定校・南ソウル大学校との「研修及びインターンシップに関する覚書」に基づき、長期インターンシップ受入(9月～2月)、及びJASSO奨学金による校外実習派遣(本科4年生、一週間程度)を計画した(6月)。</p> <p>○協定校・南ソウル大学校と、来年度長期インターンシップ受入及び校外実習派遣について確認した(8月)。</p> <p>○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った(その都度実施済)。</p> <p>○機械工学科では教員や学生が国際的な会議・学会に参加し国際性の涵養に役立てた(7、9、10、11月)。</p> <p>○電気情報工学科では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な会議に教員が参加しただけでなく、学生も参加した。国際的な会議・学会等に参加する学生への資金援助が実施された。 ・英語で研究発表を行うために必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れて実践している。 ・電子制御工学科では <p>○海外の大学との交流を継続した(9月国際工学シンポジウムで発表、8月南ソウル大学インターンシップ学生受入れ検討)。</p> <p>○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生を引き続き調査した(6月～現在)学生支援室の募集を学生へ案内、10月バーモント州青年交流事業参加)。</p> <p>○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生が必要としている情報を調査した(12月・担任等による聞き取り・留学に伴う補助金制度などの情報が必要)。</p> <p>○Intel ISEF(International Science and Engineering Fair) 2015に2名の学生が参加した(5月実施済)。</p> <p>○ニューゼaland研修に5名の学生が参加した(9月実施済)。</p> <p>○サマー・キャンプ in Singaporeに2名の学生が参加した(9月実施済)。</p> <p>○中国地区高専・海外協定校 合同研究発表会 in Koreaに2名の学生が参加した(11月実施済)。</p> <p>○PACIFICHEM(環太平洋国際化学会議)2015に教員3名、学生5名が参加した(12月実施済)。</p> <p>○教養教育科英語教員が韓国に出向し『日本の英語教育事情』について講演した(2月実施済)。</p> <p>○シンガポール技術英語研修に参加を予定したが、学生の都合により参加できなかった。</p> <p>○建築学科では南ソウル大学との連携などのプログラムの周知をおこない、参加学生を募った。</p> <p>○今年度米子高専後援会総会で国際交流基金の増資が認められた(5月)。</p>	電気情報工学科; 国際的な会議・学会等、教員だけでなく、学生の参加が望まれる。	電気情報工学科; 国際的な会議・学会等に参加する学生への資金援助が必要。	達成した	国際交流 キャリア支援室 各学科・科
<p>② 留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じて寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。</p> <p>留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>② 留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>○交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>○留学生の受入推進とそのための教育環境整備を推進する。</p> <p>○米子高専卒業生ネットワーク(Ynet-net)を活用し、留学生OBとの情報交換を行う。</p> <p>○留学生の地元元ホスト・ファミリーの実現に向け検討する。</p> <p>○留学生交流促進センターや地方自治体などが行う留学生教育の整備・充実に向けた連携に参加する。</p> <p>○留学生控室を整備・充実する。</p> <p>○留学生交流プログラムに参加させる。</p> <p>○女子留学生の増加に対する当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。</p>	<p>○2015環境研修(南ソウル大学校)学校交流プログラムの一環として高専及び高専留学制度の紹介を行った(12月実施済)。</p> <p>○留学生受入環境整備の一環として国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)の推薦を受け、ロータリー-米山記念奨学金・指定校に認定された(6月)。</p> <p>○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○Ynet-netの一環として留学生向けSNS(FB)を運用し、卒業留学生メンバー(27名、12月現在)を募り、在校留学生、海外在住日本人卒業生、地元ボランティアとの情報交換に活用する。</p> <p>○地元元ホスト・ファミリー実現に向け、留学生の地元ボランティア(2家族)との交流を試みた(5月・6月・9月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する留学生交流シンポジウムに留学生及び本科学生7名が参加した(10月実施済)。</p> <p>○留学生控室を整備・充実させた(その都度実施済)。</p> <p>○江田島で行われた中国地区留学生交流シンポジウムに留学生4名を参加させた(10月実施済)。</p> <p>○留学生を公民館事業に参加させ市民交流の推進を図った(11月・12月実施済)。</p> <p>○留学生を講師として小学生対象の出前授業を実施した(9月・2月実施済)。</p> <p>○神戸大学、広島大学、鳥取大学留学生へも参加を募り、2015環境研修・新温泉町プログラムの一環として留学生地域交流プログラム(JASSO申請採択)を実施し、10名の学生が参加した(12月実施済)。</p> <p>○今年度の整備計画を策定して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子留学生を受け入れて3年目、3学年がそろい人数も最大6名となった。 ・女子留学生用の補食室「シャワー」談話室として、ゆずり漆1階の療養室1室を割り当てたが、大きな問題もなく利用されている。 			達成した	国際交流 教務部 業務部 事務部
<p>③ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を超えて毎年度実施する。</p> <p>○外国人留学生の地域交流事業を企画・実施する。</p> <p>○外国人留学生研修旅行を年1回実施する。</p> <p>○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。</p>	<p>○外国人留学生の地域交流事業を企画・実施する。</p> <p>○外国人留学生研修旅行を年1回実施する。</p> <p>○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。</p>	<p>○神戸大学、広島大学、鳥取大学留学生へも参加を募り、2015環境研修・新温泉町プログラムの一環として留学生地域交流プログラム(JASSO申請採択)を実施した(12月実施済)。</p> <p>○留学生を公民館事業に参加させ市民交流の推進を図った(11月・12月実施済)。</p> <p>○留学生を講師として小学生対象の出前授業を実施した(9月・2月実施済)。</p> <p>○中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアムが主催する留学生交流シンポジウムに留学生及び本科学生が参加した(10月実施済)。</p> <p>○留学生研修旅行を実施した(3月実施済)。</p> <p>○留学生の要望・勉学上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施した(5月実施済、第2回目は2月実施済)。</p>			達成した	国際交流 教務部
<p>④ 教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。</p> <p>学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を図る。</p> <p>情報セキュリティ運営体制に關し、定期的に第3者機関による監査を実施する。</p> <p>情報セキュリティ対策を適切に推進する。</p> <p>高専統一システムに係る環境整備を推進する。</p> <p>○年1回のパソコン/ソフトウェア検査を実施する。</p> <p>○平成30年度機構統一校内LAN導入に向けての準備を進める。</p> <p>○高専機構IT資産管理システムの導入を推進する。</p>	<p>④適切な情報セキュリティ対策を推進する。</p> <p>○教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上のために、情報セキュリティに関する研修会を積極的に開催する。</p> <p>○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を講演会などを通じて実施する。</p> <p>○情報セキュリティ運営体制に關し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施する。</p> <p>○各実施手順書を順次作成する。</p> <p>○年1回のパソコン/ソフトウェア検査を実施する。</p> <p>○平成30年度機構統一校内LAN導入に向けての準備を進める。</p> <p>○高専機構IT資産管理システムの導入を推進する。</p>	<p>○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った(8月実施済)。</p> <p>○機構主催のISトピセミナーを受講する(7月実施済)と共に、全教職員に対するe-learning研修を実施しISIに関する知識と意識の醸成に努めた(12月実施済)。</p> <p>○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を新入生オリエンテーション、L・H・R、や特別講演会などを通して実施した(4月から適宜実施済)。</p> <p>○情報セキュリティ運営体制に關し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施し、その運営体制強化に役立っている(12月実施済)。</p> <p>○独自監査の結果をもとに情報セキュリティガイドを修正した(3月実施済)。</p> <p>○機構による情報セキュリティ監査を受審し、IS上の安全性に関しては概ね優秀であるとの評価結果が得られた(10月実施済)。</p> <p>○ソフトウェア検査を実施した(12月～翌年1月実施済)。</p> <p>○本校内の通電ケーブルの再敷設を完了した(3月実施済)。</p> <p>○中国地区8高専でSINET5アクセス回線共同調達をし、SINET5に移行完了した(3月実施済)。</p> <p>○平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員の96%が「情報セキュリティポリシー」や「情報セキュリティに関する研修会」を通じて情報セキュリティへの意識が向上したことを確認した。平成28年度の同様の質問結果93%に比べて向上傾向にあったことも確認できた。(2月実施済)</p> <p>○平成27年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員98%が学生の個人情報の取り扱いについて適切に口頭から配慮を行っていることを確認した。(2月実施済)</p>			達成した	情報セキュリティ委員会 情報管理室